

平成25年 年頭のごあいさつ



明けましておめでとうございます。新しい年が市民の皆様にとって、希望に満ちたすばらしい年となりますよう心から願うものであります。

現在、本市では、「学び・発見・実践 みんなで創るスマートシティ（賢い都市）つる」をテーマに策定した第5次長期総合計画を羅針盤にまちづくりを進めております。長期総合計画は、8つの分野別計画から構成されており、その一つである「教育首都つる」を目指したまちづくりの一環として、本年は、4月開校予定の県立産業技術短期大学校都留キャンパスと連携した本地域の産業を担う人材の育成、高校再編後の桂高校跡地への平成28年度開校を目標にした4

年制の看護系大学の誘致、文化会館の（仮称）まちづくり・交流センターへのリニューアル、「文化の国体」とも言われる国内最大の文化の祭典「第28回国民文化祭やまなし2013」の事業に位置づけられた「ふれあい全国俳句大会」、「シニアコーラスの祭典」、「甲斐絹展」、「カントリー&ウェスタンコンサート」、「里地・里山・里水元気フォーラム」の開催など、全ての市民の皆様が主体的かつ能動的に「学び」を実践し、まちづくりに繋げる機会と場の提供に努めてまいります。

現在耐震補強工事を施工中で、皆様に大変ご迷惑をお掛けしております文化会館は、この工事と併せて老朽化が進む1階の老人福祉センターを子ども・若者・子育て中の親・中高年・高齢者といった異なる世代の誰もが気軽に立ち寄れ、交流できる「世代間交流施設」へとリニューアルする工事を1月末の完成を目指して実施しています。これに併せ、これまで文化会館が担ってきた生涯学習機能に市民活動やボランティア活動などの要素を加味し、さら

に都留文科大や都留市社会福祉協議会の持つ地域貢献機能を組み込むことで、世代間交流はもとより様々な分野のまちづくりに取り組む市民や学生、各種団体などの多彩な主体が、世代や分野を超えて、多様な学びや交流、まちづくりを実践する拠点として機能強化を図ってまいります。

この他、横浜国立大学との包括連携協定を基盤とした自主電源の確保とベストミックスの確立、エネルギーセキュリティの向上を図る社会システムを構築する「スマートコミュニティ構想」の推進、地域の賑いと活性化を創出する井倉地区土地区画整理事業への取組、児童生徒が安心して登下校できる安全な通学環境づくりなど、様々な取組も進めてまいります。また、去る12月2日に発生いたしました中央自動車道笹子トンネル天井板崩落事故は、管理点検の不備と経年劣化を顕在化させ、社会資本の老朽化対策の必要性・緊急性がクローズアップされましたが、本市が管理している橋梁につきましても、老朽化や震災などにより大事故につながるよう、

完成から長期間経過している橋梁について、予防的な修繕工事によりさらなる長寿命化と耐震補強を図るための工事を計画的に実施しており、今後さらに実施のスピードを早めて、安全安心なインフラ環境の整備に努めてまいります。

さらに、築45年を迎えている市役所庁舎についても、切迫性が指摘されている東海地震などの大規模震災の発生に備え、本年度より2年をかけて耐震化工事及び増築工事を行うこととしております。工事期間中はご不便とご迷惑をお掛けいたしますが、市民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。本年も、個性的で魅力的な、住むことに誇りや愛着の持てる都留づくりを実践してまいりますので、市民の皆様の一層の参加・協働をお願い申し上げます。

平成25年元旦

都留市長 小林義光

今年、重点的に進める施策の一覧を公表します。

今年の主な重点施策・主要事業

分野1 人・まち・自然とまなぶライフアクションつる

- ・学生人口拡大に向けた取組
(再編後の桂高校跡地への看護系大学等の誘致)
- ・魅力ある大学づくり
(市民と大学との交流・協働の推進のための環境整備)
- ・教育課程と指導の充実
(市費負担教員の配置による少人数指導の実施)
- ・国際交流事業の推進
(ヘンダーソンビル市姉妹都市交流30周年記念招致事業)
- ・第28回国民文化祭やまなし 2013 関連行事の開催
- ・児童生徒が安心して登下校できる安全な通学環境づくり
(通学路改修)

分野2 人・まち・自然がげんきメイクアクションつる

- ・定住人口対策の推進(I・J・Uターン促進)
- ・地域資源を活用した参加・体験型観光の取組
(十日市場・夏狩湧水群、戸沢の森・和みの里)
- ・井倉土地区画整理事業の促進
- ・企業誘致の促進と地場産業の振興

分野3 人・まち・自然にやさしいグリーンアクションつる

- ・「里地・里山・里水」の活用と保全
(保全及び活用に関する条例制定とその取組)
- ・「アクアバレーつる」構想の推進
(環境学習フィールドの活用)
- ・太陽光発電等の普及促進
(学校施設への太陽光発電システムの導入)
- ・スマートコミュニティ構想の推進
(横浜国立大学との包括連携協定事業)

分野4 人・まち・自然とむすぶコラボレイトアクションつる

- ・地域協働のまちづくりへの支援
(拠点の整備と支援の充実、担い手育成支援)
- ・文化会館リニューアルに合わせた「まちづくり・交流の中心的な施設」としての機能強化
- ・市民や学生、団体間の世代や分野を超えたネットワーク体制の強化、拡充
- ・ボランティア活動への支援
(市民活動支援センターを中心とした連携体制の整備)

分野5 人・まち・自然がいいききウェルネスアクションつる

- ・心の健康づくり対策の推進
- ・疾病予防活動の充実
(特定健康診査、各種がん検診の受診率向上)
- ・鶴寿のまち健康づくり支援(認知症早期発見・早期対応)
- ・市立病院の充実

分野6 人・まち・自然とふれあいケアアクションつる

- ・高齢者の防災・防犯対策、急病、DVなどの緊急時対策の充実
- ・児童の健全育成の支援
(文化会館内への世代間交流・異年齢児交流の場の整備)
- ・ファミリーサポート事業の推進
- ・地域密着型介護サービスの推進
(グループホームの整備促進)

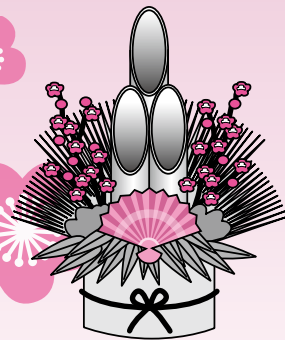
分野7 人・まち・自然とやすらぐセーフティアクションつる

- ・都留市、大月市及び上野原市の3市による共同消防指令センター整備・運用に向けた協議
- ・公共施設の耐震化
(市役所庁舎耐震補強改修工事、橋梁長寿命化修繕)
- ・救急業務におけるプレホスピタルケア^{*}の充実
※急病人などを病院に運び込む前に行う応急手当てのことで、主として、救急車内で行うものをいう。
- ・地域防災機能の強化
(自主防災組織の育成、災害弱者対策の充実)

分野8 人・まち・自然がかしこいスマートアクションつる

- ・行財政改革の推進(事業仕分け・行政評価の推進)
- ・税等の徴収対策の強化
(コンビニ収納の推進、債権回収対策の強化)

門松のお話



お正月に玄関先に飾る「門松」ですが、最近では実際に飾っている民家をほとんど見なくなりました。昔は市内でも12月25日頃から新年の準備が始まり、各家から餅つきの音が聞こえて来たり、職人の方々が門松の作製をする様子が見受けられ、正月には各家の玄関に立派な門松が飾られたものです。

現在では実際には飾られなくなったものの、門松が印刷された用紙を玄関先に貼っているご家庭も多いのではないのでしょうか。

さて、この門松には、いろんな飾りの種類があるのですが、ちょっとここで、その姿を思い浮かべてみてください。「竹」のイメージが浮かんできませんか？

名称は門「松」なのに、なぜ「竹」のイメージがあるのでしょうか。右上のイラストも、竹が3本立っており、全体的に竹のイメージで構成されています。

実は、もともとの門松はその名のとおり、松がメインでした。その起源については諸説ありますが、平安時代、貴族達が行っていた「小松引き」と言う行事から来ているというのが有力なようです。この小松引きは、長寿を祈願して、新年最初の子ねの日に山野に出て若松を引き抜き、宴を設けたという行事なのだそうです。

そして、江戸の頃の門松になると、そのまま小さい松を立て、それを注連縄しめなわで縛って飾りとしたものが多かったそうです。この頃に、どうやら「松竹梅」という縁起物にかけて、飾るための支柱として

「竹」を使い始めたのが始まりのようです。ただ、江戸の頃は笹のような細い竹を使用しており、葉もついたまま何本かまとめて飾っていたようです。

では、現在のように太い3本の竹が一般的となったのはいつからでしょうか。明治時代の江戸文化・風俗研究家の三田村鳶魚えんぎよが、『江戸の春秋』という本の「お大名の松飾り」という章に以下のような話を書いています。

「大名の安藤対馬守が、徳川家康との碁の対局をきっかけとして松飾りを拝領することとなった。この松飾りは將軍家の飾りと同じものだが、一般のものと目立って違うのは竹の部分。一般的なのは葉つきであるのに対し、徳川家では竹束たまたけといって、火縄銃などの弾丸除たまげにする太い竹を、正月の飾りに用いる例であった。また、その竹は斜めに切った「殺ころぎ竹」であった。安藤家はその拝領の松飾りを、表門外と玄関前に立てた。」

この飾りを見て、一般の家屋でも飾り始めたのが始まりなのではないか、といわれています。また、この殺ころぎ竹は、家康の生涯唯一の敗戦といわれる、武田信玄との「三方ヶ原の戦い」のあと、「次は武（竹）田の首を殺ころぐ」という念を込めたものだといわれています。そしてその一方で、武田信玄を祀る武田神社に飾られる門松の竹はというと、斜めに殺ころいだものではなく、水平に切られたものが飾られているそうです。とても興味深い話だと思いますか。



■昭和50年代に市内で門松が売られていた様子